

假定法

実は英語には「法」が3つもあるんです！

1. 直説法

2. 命令法

3. 仮定法

そもそも「法」って何？

「法」とは「動詞の形」のことです！

知ってた？

1. 直説法 = 現在や過去の事実を述べる場合の動詞の形
2. 命令法 = 命令や要求を述べる場合の動詞の形
3. 仮定法 = 事実とは異なる仮想のことを述べる場合の  
動詞の形

# 時制（時間）

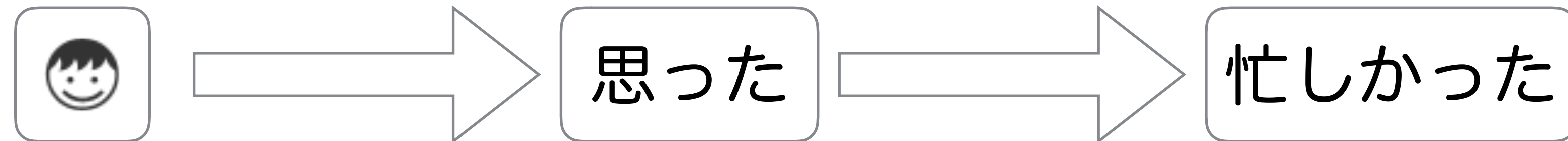
英語は時制にうるさいです！

ということ？

日本語の例文で説明します

私は彼が忙しかったと思った。

日本人はこれで時間の流れを把握できます



しかし、英語はそれぞれの時間を  
正確に表さないといけません！

Holy crap!

**I thought he had been busy.**



**thought**

過去形



**had been**

過去完了形

前置きが長くなりましたが、

このように時間にうるさい英語だからこそ、

ありえないことを表す時に、動詞の時制をずらすのです！

Get it?      Got it.



「仮定法過去」と「仮定法過去完了」を次のように表します。

## 仮定法過去

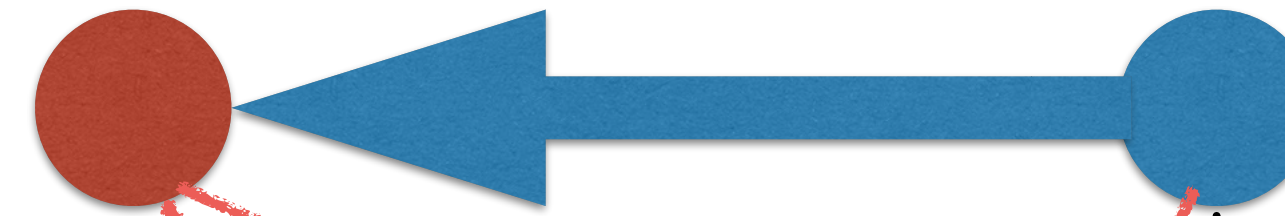
現在の仮定のことを表すので、動詞の形（法）をずらして  
過去形にすること

## 仮定法過去完了

過去にさかのぼって仮定のことを表すので、動詞の形（法）  
をずらして過去完了形にすること

動詞を過去形にします。

現在ここにいます。



現実とは違う架空の話しをするために  
時間をずらします（距離を置きます）。

動詞を過去完了形にします。



過去において現実とは違う  
架空の話しをします。

更に時間をずらします  
（距離を置きます）。



時間の幅（距離）

## 「仮定法過去」の公式

If 主語 +	動詞の過去形 were/was	..., 主語 +	would, could should, might	+ 動詞の原形
---------	--------------------	-----------	-------------------------------	---------

## 「仮定法過去完了」の公式

If 主語 + had + 過去分詞	..., 主語 +	would, could should, might	+ have + 過去分詞
--------------------	-----------	-------------------------------	---------------

For you reference

助動詞の後ろは動詞の原形を置くって習いましたよね？

実はそれ間違っています。

助動詞の後ろは原形不定詞を置くが正解です。

will = be going to不定詞      must = have to不定詞

can = be able to不定詞      ought to不定詞

公式をそのまま覚えられなければ、  
自分のことや身の回りのことで考えてみましょう。

仮定法過去

もし私がお金持ちなら、新しい車を買うのに。

If I were rich, I would buy a new car.

If I had much money, I would buy a new car.

仮定法過去完了

もし一生懸命勉強していたら、東大に入れたのに。

If I had studied harder, I could have entered the University of Tokyo.

## if節と主節で表す時が異なる場合

if節が過去で、主節が現在のこと

if節には過去の事実反から「仮定法過去完了」を、  
主節には現在の事実反から「仮定法過去」を用います。

If I had caught the train then, I would be at home now.

もしあの時その電車で間に合っていたら、今頃家にいるのに。

# if節と主節で表す時が異なる場合

if節が現在で、主節が過去のこと

if節には現在の事実に反するから「仮定法過去」を、  
主節には過去の事実に反するから「仮定法過去完了」を用います。

If I knew any French, I would have known that the museum closed at three.

もし少しでもフランス語ができれば、博物館が3時に閉まるということが分かっただろうに



wish 「～なら（だったら）なあ」

wish以降が現在の事実と反するなら「仮定法過去」を、  
過去の事実と反するから「仮定法過去完了」を用います。

I wish I knew her LINE ID. 彼女のLINE IDを知っていたらなあ。

I wish I had finished my homework. 宿題を済ませておけばよかったなあ。

as if 「まるで～である（あった）かのように」

as if以降が現在の事実と反するなら「仮定法過去」を、  
過去の事実と反するから「仮定法過去完了」を用います。

He talks as if he knew everything.  
彼は何でも知っているかのように話す。

He looks as if he had won the match.  
彼はまるでその試合に勝ったかのように見える。

# Conclusion

仮定法は、実際の時制とは時間をずらすことで仮定のことを表すので、  
分かりづらいのは確かです。

しかし、落ち着いて動詞の時制を確認しましょう。  
例えば次のようにしてみるのはいかがでしょうか。

過去形には○を、過去完了形には□をつけてみる。

If I ☐ had much money, I ☐ would buy a new car.

If I ☐ had studied harder, I ☐ could have entered the University of Tokyo.

問題用紙のどこかに

実際の時制は → ○ = 現在、□ = 過去

をメモっておく。

過去形には○を、過去完了形には□をつけてみる。

If I knew any French, I would have known that the museum closed at three.

I wish I knew her LINE ID.

He looks as if he had won the match.

問題用紙のどこかに

実際の時制は → ○ = 現在、□ = 過去

をメモっておく。



*Thank you for your attention.*